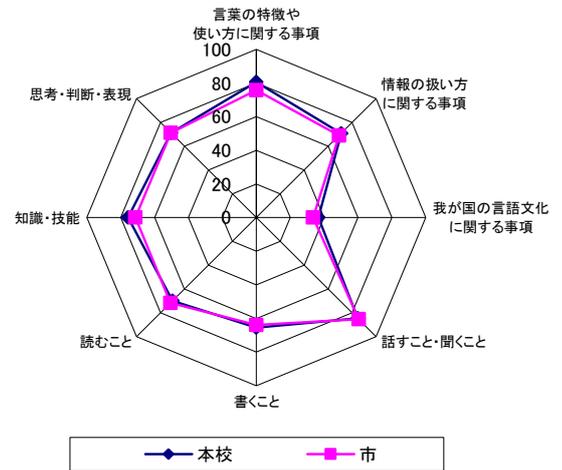


宇都宮市立横川東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.6	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	70.8	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	36.7	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	84.7	85.5	86.5
	書くこと	65.4	63.9	65.8
	読むこと	70.0	71.6	69.5
観点別	知識・技能	75.7	71.3	72.9
	思考・判断・表現	71.1	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

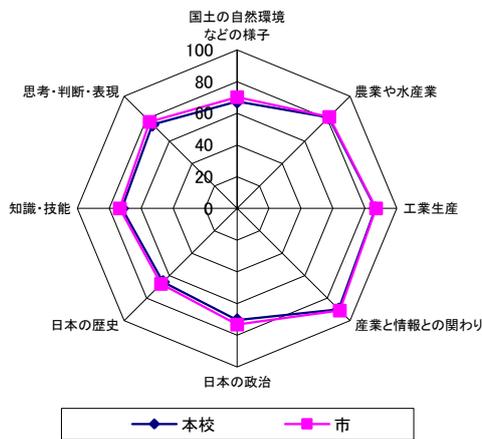
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○6学年の配当学年の漢字や前学年の配当漢字を読んだり書いたりする問題においては、複数の問題において市の平均を5ポイント以上上回っている。</p> <p>●文と文との接続についての問題では、市の平均を2.6ポイント上回っているが、平均正答率は45.8%にとどまっている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・今後もドリルやプリント、AIDリルを活用し、基礎・基本を習得できるよう反復練習を継続する。</p> <p>・熟語を活用したり、自分の言葉で書く活動を取り入れて、言語の理解を深めたり、言語感覚をさらに養っていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○原因と結果を表している文章を選ぶ問題では、校内の正答率は70.8%であり、市の平均を1.7ポイント上回っている。</p>	<p>・読書活動をさらに推進し、様々な文章に触れる機会を増やし、文の構成の理解ができるようにしていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○和語・漢語・外来語を選ぶ問題では、市の平均を3.2ポイント上回っている。</p>	<p>・語句の意味を確認したり、和語・漢語・外来語の由来や特徴を調べたりする活動を取り入れていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べてやや低い。</p> <p>○意図に応じて、質問を工夫する設問の正答率は91.7%で、市の平均を2.4ポイント上回っている。</p> <p>●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える設問の正答率は、65.8%で市の平均より4ポイント低くなっている。</p>	<p>・授業の様々な場面で、ペア学習やグループ学習を意図的に取り入れ、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする活動を継続して行う。</p> <p>・目的や観点を明確にすることや相手の話の内容や意図に応じて質問する活動を取り入れることで効果的な話し合い活動が行えるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて高い。</p> <p>○目的や意図に応じて、書くことを選び、伝えたいことを明確にする設問の正答率は、70.8%で市の平均を6.7ポイント上回っている。</p> <p>○文章を書く設問の正答率は、市の平均とほぼ同じである。書く力についてはおおむね身に付いており、学年で取り組んだ成果が表れてきている。</p>	<p>・授業の中で、自分の考えや意見を書く活動を必ず位置付けるようにする。また、例文を提示したり、ポイントや視点を明確にしたり、段落や文字数などの条件を示したりして、書く活動が効果的に行えるように支援する。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○登場人物の様子について、描写をもとに捉える設問の正答率は、85.0%で市の平均より1.4ポイント高い。</p> <p>●目的に応じて文章の情報を整理する設問の正答率は、56.7%で市の平均より5ポイント低く課題が見られる。</p>	<p>・毎朝の読書活動を推進したり、図書室の利用を積極的に行ったりすることで幅広い内容の本に触れる機会を増やしていく。</p> <p>・物語や説明文の内容を読み取る活動において、ワークシートや提示物を工夫して、文章の構成や叙述、描写を一つ一つ丁寧に読み取り、読む力の向上を図っていく。</p>

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	67.5	70.3	66.4
	農業や水産業	81.1	81.6	75.3
	工業生産	86.7	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	90.0	91.0	81.3
	日本の政治	70.4	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	65.6	67.4	68.5
	知識・技能	72.1	73.5	72.5
	思考・判断・表現	74.9	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

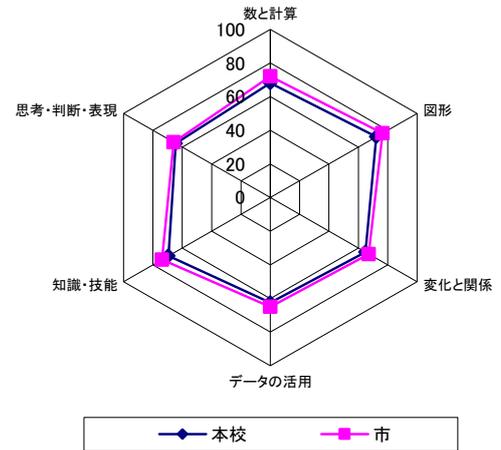
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○人工林の役割に関する設問では、正答率が82.5%で市の正答率を2.5ポイント上回っている。 ●季節風に関する設問では、正答率が50%で市を8.5ポイント下回っている。</p>	<p>・地図帳の活用頻度向上を図る。地名が出た際などに「どの海に面しているか」を確認する。 ・季節風について「なぜその風が吹くのか」「その結果どうなるか」という因果関係を確認し、学習を深める。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ○米の生産が盛んな地域について、地図を読み取る設問では、正答率が市の正答率を3.8ポイント上回っている。 ●米の品種改良についての理解をもとに、資料を読み取り表現する設問では、市の正答率を3ポイント下回っている。</p>	<p>・事実だけでなく、効果や背景まで考える場面を増やす。また、品種改良が行われなかったらどうなっていたか等を議論させることで、生産者の努力や技術の重要性を理解できる授業を展開する。 ・分かったことや考えたことを文章でまとめたり、伝え合ったりする活動を取り入れ、学びを深めたい。また、複数の資料を関連させながら読み取ったり、表現する活動を取り入れたりとすることで、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○自動車の製造工程に関する設問では、正答率が市の正答率を1.4ポイント上回っている。 ●日本の貿易の変化について、資料をもとに表現する設問では、正答率が市の正答率を3.2ポイント下回っている。</p>	<p>・予想を立てて学習に取り組んだり、考えたことを表現したりする活動を取り入れ、理解力を高めていく。また、工業製品を身近に感じながら課題を追究できるように、問いを工夫したり、工場見学等の体験的活動を取り入れたりする。 ・体験活動では、事前学習、体験活動、事後学習の流れを大切にしていきたい。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ●情報の発信と受信の注意点についての設問の正答率は、88.3%で市と比べて0.7ポイント下回っている。 ●情報を生かした産業について考える設問では、正答率は91.7%と高いが、市の正答率を1.4ポイント下回っている。</p>	<p>・情報の発信と受信について、身近な生活と関連づけながら理解させる。 ・情報を生かした産業について、目的や意図を考えさせることを通して、より理解が深まるように指導していく。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○日本国憲法の原則である基本的人権の尊重についての知識を問う設問では、市の正答率を6.2ポイント上回っている。 ●法律ができるまでの流れについての資料を読み取る設問では、市の正答率を10.1ポイント下回っており、資料をもとに制度の仕組みを具体的に捉える力に課題が見られる。</p>	<p>・法律制定の流れについては、資料や図を活用しながら「どの機関がどのような役割を果たしているのか」を段階的に整理する活動を充実させる。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○弥生時代についての理解をもとに判断する設問では、市の正答率を5.7ポイント上回っており、資料をもとに当時のくらしや社会の様子を考える力は身に付いている。 ●織田信長の業績についての知識を問う設問では、市の正答率を7ポイント下回っており、人物とその政策・時代背景を関連付けて理解する力に課題がある。 ●江戸時代の禁教と鎖国について、適切な資料を判断する設問では、市の正答率を9.4ポイント下回っており、資料から歴史的事象の意味や背景を読み取る力に課題が見られる。</p>	<p>・人物の業績については、政策の目的やその後の社会への影響まで考えさせることで、因果関係を捉える力を育てる。 ・禁教や鎖国などの政策については、複数の資料を比較しながら読み取る活動を取り入れ、自分の言葉で説明する機会を増やすことで、歴史的事象を多面的に理解する力を高めていく。</p>

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.1	72.1	74.6
	図形	72.2	76.5	76.1
	変化と関係	64.8	67.1	59.7
	データの活用	62.5	65.0	64.5
観点別	知識・技能	69.4	73.8	74.7
	思考・判断・表現	64.4	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

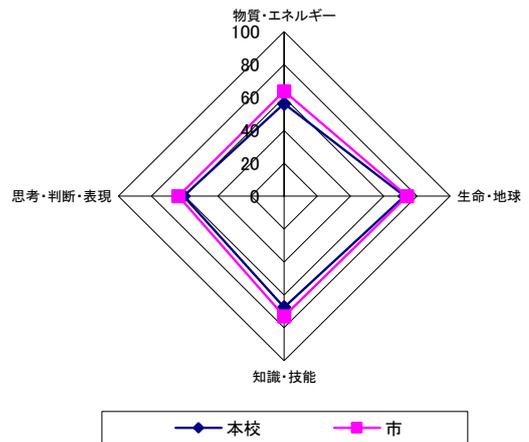
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>○比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍かを求める式を選ぶ設問では、市の正答率を2.8ポイント上回った。</p> <p>●分数の計算の設問は、市の正答率を下回った。</p>	<p>・朝の学習や授業中、家庭でのプリント・ドリル学習などで計算の反復練習を継続して実施するとともに、計算力の更なる向上に向けた取り組みを行っていく。</p> <p>・分数の意味や表現、既習の計算などをもとに図や式などを用いて多面的に考えることができるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>●三角形の3つの角の和を理解し、2つの角の大きさから1つの外角の大きさを求める設問では、市の正答率7.4ポイント下回った。</p> <p>●3辺の長さを使って、合同な三角形を作図する設問では、市の正答率を7.7ポイント下回った。</p>	<p>・デジタル教科書やタブレットなど視覚的に理解できる教材を用いて、立式できるようにする。</p> <p>・定規とコンパスを用いた作図の反復練習を継続し、技能の定着と向上を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>○表から車両数と人数の割合を求め、どの路線が最も混んでいるかを考察する設問では、市の正答率を0.6ポイント上回った。</p> <p>●速さと時間から、道のりを求める設問では、市の正答率を5.6ポイント下回った。</p>	<p>・日常の様々な場面を例に、実生活と関連付けた事象を取り扱うことで興味関心をもって学習できるよう工夫する。</p> <p>・単位量あたりの大きさや速さに関する問題について、計算だけでなく数学的な考え方のスキルアップを図る問題にも多く取り組みませ、思考力を高めていきたい。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>○値に0がある分離量の平均を求める設問では、市の正答率を4ポイント上回っている。</p> <p>●円グラフを正しく読み取る設問では、市の正答率を9.2ポイント下回っており、他の問題に比べるとやや正答率が低かった。</p>	<p>・割合のグラフに関する問題については、ICT端末を活用したり、補助プリントで反復練習をしたりして、データの処理の仕方やデータの見方が理解できるように指導の工夫改善を図る。</p> <p>・朝の学習の時間や家庭学習を活用して、復習する時間を設け、学習内容の定着を図る。</p>

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.2	63.8	61.6
	生命・地球	72.6	74.1	73.3
観点別	知識・技能	67.5	73.0	71.3
	思考・判断・表現	60.7	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電流のはたらきに関する設問では、市の平均を大きく下回っている。 ●水よう液の性質での気体が溶けていることを理解しているかの設問は、市の平均を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を行う際は、理解しやすく実感を伴って行えるように、実験方法や道具や装置を工夫する。また、学習問題から実験方法を考えたり、実験結果を全体で共有したりする機会を積み重ねることで、定着を図っていきたい。
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○●食物連鎖のもとをたどる設問の正答率は市の平均を5.6ポイント上回っているが、食物連鎖の理解に関する設問は市の平均を7.7ポイント下回っている。 ●月の見える形が変わる理由を説明する設問では、市平均を下回り、位置関係をもとにした推論に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を部分ではなく全体のつながりとして捉えさせる学習活動の工夫をする。 ・観察・実験結果をもとに、位置関係や条件の変化から理由を説明させる場面の意図的な設定をする。 ・図・モデル・言葉を関連付け、思考過程を可視化・言語化する指導の充実を図る。

宇都宮市立横川東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの授業改善	・問いをもたせたり、興味関心を高めたりする導入の工夫 ・自分の考えを広げ深めるための交流の場の設定や発表方法の指導	・「勉強が好き」、「話合いに自分から進んで参加している」、「ものをいろいろな視点や立場から考えている」と答える児童の割合は、学年によって差はあるが、市の肯定割合とほぼ同程度か上回る結果であった。
・基礎・基本の確実な定着	・AI型学習ドリルなどICTを活用した個に応じた指導の充実 ・朝の学習の充実 ・学期ごとの漢字・計算オリンピックの実施	・国語の漢字等を含む「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「書くこと」では、市の平均を上回っている。算数の「数と計算」では、市の平均を下回る結果であった。
・家庭学習の習慣化	・発達段階に応じた家庭学習の内容や分量の検討と指導 ・「家庭学習の手引き」の効果的な活用	・上学年では、平日30分～1時間程度家庭学習に取り組んでいる児童が多い。「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は、学年によって差はあるが市の肯定割合とほぼ同程度か上回る結果であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査において、「話合いに自分から進んで参加している」の肯定割合はほとんどの学年で県や市の平均を上回っており、対話的な学習を意識し、話合い活動を積極的に取り入れてきた成果と考えられる。次年度は、さらに学びを深めるために、課題に応じて学習形態や観点を工夫していく。

・国語の知識・技能の平均正答率は、国・県・市の平均とほぼ同程度か上回っている。算数の知識・技能の平均正答率は、やや低いところも見られた。基礎基本となる学力はおおむね身に付いていると言えるが、個人差がある。引き続き、「朝一学習」や漢字・計算オリンピックなどの活動の充実を図るとともに、さらにAI型学習ドリルを活用して個に応じた指導の工夫を充実させ、学習内容の確実な定着に努める。

・国・県・市の調査において、平日30分～1時間程度家庭学習に取り組んでいる児童が多く、家庭学習の習慣が定着してきている。今後も家庭と連携を図りながら、より一層の充実を図っていく。